

## 病気予防の免疫システム解明へ

# 徳大研究班に年3億円

徳島大学疾患プロテオゲノム研究センター長の高浜洋介教授を代表とする研究班に、新学術領域研究として年間約3億円の科学研究費補助金(科研費)が文部科学省から交付されることが決まった。新学術領域研究の科研費が徳大を拠点とするグループに交付されるのは初めて。



高浜洋介教授

科研費の対象となる研究内容は「免疫4次元空間ダイナミクス」。病気を予防する免疫システムで、免疫細胞と重要な役割を果たすストローマ細胞を中心に研究する。

免疫細胞は単体では分化せずストローマ細胞とセットになって初めて分化し機能する。免疫細胞の研究はこれまで広く行われてきたが、ストローマ細胞については解明されていないことが多い。ストローマ細胞の研究が進めば、免疫システムと神経システム、内分泌システムとの相互関係が明らかになり、リウマチや1型糖尿病、アトピー

## 文科省が5年間交付

やアレルギーなどの治療に役立つ可能性がある。研究班は免疫が専門の大学教授ら11人。今後、さらに研究者15人をめどに公募する。科研費は5年間交付される。

高浜教授は「科研費を元に、実績のある研究者が集まって新しい学術領域を立ち上げたい」と話している。

科研費はすべての科学分野で、基礎から応用まで幅広く学術研究を発達させるのが目的。新たな研究領域を進展させる目的の新学術領域研究では、高浜教授の研究班のほか20件が採択された。

(宮本真)